

すいたの年輪ネットの経緯

市域での取組

地域での取組

平成28年～平成29年度

「高齢者の生活支援と社会参加に関する調査（H28）」の結果を「すいたの年輪ネット」で検討

①気軽に立ち寄れる居場所 ②地域活動への参加 ③高齢者に必要な生活支援サービス ④高齢者による高齢者の生活支援

- 集いの場の集約、充実・活性化等について検討
 - ・集いの場交流会で運営団体の課題等を共有（担い手、活動内容や参加者の固定化等）
 - ・吹田市高齢者生活サポートリスト「集いの場編」を発行

- 高齢者生活支援について検討
 - ・市内の生活支援サービスの集約を検討
 - ・（仮称）ちょこっとサポーターの仕組み検討

- 高齢者のこれからを考える交流会の開催（各ブロックで開催）
 - ・地域の強み／弱みを確認
 - ・地域課題や取組めること等を意見交換

平成30年～令和元年度

- 集いの場支援、高齢者の社会参加促進について検討
 - ・集いの場の課題や充実方法等について検討
 - ・移動支援の検討
 - ・吹田市高齢者生活サポートリスト「集いの場編」を改訂

- 高齢者生活支援サービスの集約
 - ・吹田市高齢者生活サポートリスト「生活支援サービス編」を発行

- 地域課題の共有・地域ケア会議との連携
 - ・地域包括支援センター／CSW／生活支援コーディネーターが定期的に地域課題等を共有する意見交換会を開催
- 地域での高齢者生活支援について検討
 - ・各地域課題を地域団体、地域包括支援センター、CSW 等と意見交換

- アクティブシニア養成（高齢者の社会参加促進）
 - ・吹田市高齢者生活サポートリスト「シニア世代の活動場所編」を発行
 - ・地域元気アップ講座を開催し担い手養成

- 高齢者生活支援について検討
 - ・高齢者の困りごと（簡易な生活支援）に対して、吹田の強みを生かした仕組みについて検討

「助け愛隊」を創設

対象：一人暮らし高齢者（75歳～） 内容：電球交換、季節家電の入れ替え、大型ゴミ搬出、庭掃除

令和2年度～令和3年度

- アクティブシニア養成（高齢者の社会参加促進）
 - ・吹田市高齢者生活サポートリスト「集いの場編」をICTツールで公開
 - ・吹田市高齢者生活サポートリスト「シニア世代の活動場所編」を改訂
 - ・高齢者のICTサポート（スマホ講座等）を通してコロナ禍の「他者との交流」「多世代とのつながり作り」を開始
 - ・元気健康フォーラムを動画配信／会場開催

- ICTツールを活用した高齢者生活支援
 - ・福祉施設と連携して体操等の動画をICTツールで公開
- 高齢者生活支援サービスの集約
 - ・吹田市高齢者生活サポートリスト「生活支援サービス編」を改訂

- コロナ禍の地域での高齢者生活支援を推進
 - ・大学生、福祉委員会、CSW と連携して「心の交流」をコーディネート

- 地域での高齢者生活支援を推進
 - ・地域課題を地域団体、地域包括支援センター、福祉事業所、CSW 等と地域検討会で検討（地域検討会の開催に向けた調整含む）
 - ・地域版助け愛隊創設をサポート
 - ・高齢者向けスマホ講座等の開催をサポート

令和4年度～令和5年度

●取組む課題

市域

- ①担い手不足が深刻化している。実費弁償等の検討が必要。
- ②ICTツールやスマートフォンの活用が困難な高齢者へのサポート。
- ③遠くまでは行けない。コロナ禍で多人数が集まらない。
- ④社会参加に消極的な高齢者にどのように促していくか。
- ⑤相談ほどではないが「愚痴」をこぼせる場所があれば良い。

地域

●あったら良いな

市域

- ①助け愛隊の内容／対象の拡大の検討。
- ②ICTを活用した高齢者からの相談対応。
- ③住民同士のつながりをオンライン化することでハードルが下がる人もいる。オンラインの活用を推進し孤立・孤独の軽減を図れたら良い。
- ④「地域の課題」＝「市域の課題」と捉えて、地域の取組み（地域版助け愛隊、体操の場創出など）を全市で共有し広がれば良い。

地域

- ⑤身近な地域（マンション単位も含む）で生活課題を検討する場が必要。
- ⑥数人でも集まれる場所が必要（各地域検討会の議論を活性化）。
- ⑦地域行事に参加する際に「お節介」な住民が関わってくれたら参加しやすい（介護予防推進員、認知症サポーター等との連携）。
- ⑧地域で検討を進めるためにも地域型コーディネーターが必要。